

令和7年3月7日

令和6年度 とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	台東区立千束幼稚園
所在地	台東区浅草4-24-15

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子供たちの興味関心、園の特色など)
身近な生き物について興味関心をもってもらいたい。

2. 活動スケジュール

- ・親子自然教室でのプロナチュリストによる観察、ヤゴの採集。
- ・自分たちで育てた植物を使っての、制作遊びや色水遊び。
- ・園内では目にすることのできない、季節の花を生け花やお茶会で目にし、描いたり立体で造形したりする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・園の自然環境を活用するために、そのきっかけとしてプロナチュリストを招聘し、知るきっかけ作りを行う。
- ・色水が作りやすい植物の栽培。
- ・

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

- ・園の自然環境を活用するために、そのきっかけとしてプロナチュリストを招聘し、知るきっかけ作りを行う。
- ・自然物を使った色水遊びや造形活動。年齢に応じて使用する道具や素材を変えて、興味に合わせた探究活動ができるようにした。
- ・園庭の金柑の木についたアゲハチョウの幼虫を羽化させ、観察し逃がすまでの一連の成長記録。

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

- ・アゲハ蝶が羽化し、外へ逃がした方がよいか、園で飼い続けたいという思いを優先するかで、幼児が飼い方エサについて知る姿があった。また、羽化した当日に一番興味を持って観察していた幼児が欠席だったことから、その子が見ていないのに逃がしたら悲しいと思うという幼児からの声があった。弱って死んでしまっはアゲハチョウの命もかわいそうとなり、様子を動画に撮って後で見せてあげようというやりとりを教師と幼児の間で行われた。
- ・育てた綿花の綿を見て、幼児が羊みたいにもこもこしているねというつぶやきを受けて、担任が羊の手足や顔のパーツを作成し、幼児が組み合わせて綿花の綿毛を羊の身体に見立てて制作活動を行った。

<活動の様子>

活動の様子が分かる写真を2枚以上貼付してください。

(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)



5. 振り返り

(振り返りによって得た保育者の気づき)

- ・幼児なりに興味を持ったことへは探究心がある。(アゲハ蝶は何を食べるのかという幼児なりに疑問をもち、図鑑や飛んでいる蝶を見て観察したりする)
- ・自分の得た知識を周りの友達に発信したいという気持ちが出てきた。それを発表できる機会や気づきを掲示してみるなど、教師が機会を捉えて行っていくことで、さらに知りたい自分もやってみたいにつながっていくと感じた。

以上

令和7年3月7日

令和6年度 とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	台東区立千束幼稚園
所在地	台東区浅草4-24-15

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子供たちの興味関心、園の特色など)

浅草という地域がらのため、お囃子や和太鼓演奏などを耳にする機会が多い。
地域に和太鼓奏者がいるので、身近な方に教えていただき、和太鼓の音色や音の響き、身体でリズムを感じる楽しさを味わう活動を実施する。

2. 活動スケジュール

- ・音（和楽器）に親しむきっかけとして、地域の和太鼓演奏者に来園してもらい、和太鼓コンサートと和太鼓体験。
- ・今年度創立 70 周年の記念式典があり、その中で地域の方に子供たちの取り組みとして和太鼓の演奏を披露。
- ・誕生会で園長が毎月楽器の紹介を行い、園にはない楽器や音色を知るきっかけ作りを行った。
- ・併設小学校の1年生との交流活動で音楽の授業に参加させてもらい、リズムを感じて叩く体験。
- ・園内にある楽器を使って、音源に合わせて自分たちで演奏方法を考えて演奏する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

自分で好きな時に音源をかけて楽器遊びができる音環境。
学年によって使える楽器を分けて取り組ませる。
自由に楽器を選んで鳴らすことができる配置と数の調整。

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

・和太鼓演奏者の生の演奏を見聞きすることで、自分もやってみたいと思える機会となり、楽しんで和太鼓体験を行った。曲に合わせて叩くことをしたことで、音が合うと嬉しいや気持ちがいいという感覚を覚える。音を聞いて合わせることを繰り返し取り組んだことで、11月の周年記念式典のアトラクションとしてお客様に発表を行った。

・和太鼓演奏の経験を活かし小学生と一緒に、打楽器を使い、歌詞に合わせて叩くことでリズムを感じて演奏を楽しんでいた。それをきっかけに自分たちでいろいろな曲に合わせて叩いてみたい、いろいろな楽器をつかってみたいという気持ちになり、曲の印象によって楽器を選んで使い分ける姿があった。その経験を活かして、新入園児の一日入園で自分たちの取り組みの様子を発表した。

・園長先生が誕生会で毎月楽器の演奏をしてくれ、楽器との出会いを設けてくれた。その楽器に実際に触れることができ、新しい音と出会うきっかけとなった。

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

・和太鼓演奏で、始めは好きなように叩いていたが、友達と一緒に叩いているうちに音が揃うことの気持ちよさに気づき、自分たちで「いくよ」と声を掛けて揃えてたたきたいという気持ちが出てくるようになった。そのことを教師が言葉にすると、一緒にやろうと友達を誘って一緒に行く姿がみられるようになった。

・園長先生のアコーディオンの演奏を見て、自分もやってみたいと思った幼児が、空き箱と画用紙を蛇腹折にしたものを貼り合わせて自前のアコーディオンを作って、演奏をしている気持ちになって動かす姿が見られた。その後も、ラッパやクラリネットなどいろいろな楽器作りに挑戦する姿があった。

<活動の様子>

活動の様子が分かる写真を2枚以上貼付してください。

(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用してください。)



5. 振り返り

(振り返りによって得た保育者の気づき)

- ・子供たちを音にどのように出会わせるのかについて考えながら、教師自身も試行錯誤したようにおもう。継続して取り組みたいと感じる環境と機会を設けることが大切であると考えたが、入り口となるきっかけや園内だけでは取り組むことが難しいこともあったので、外部講師や小学生の力も借りて進めていけたことは、子供たちにとって新しい刺激となった。
- ・周年式典や新入園児の一日入園など見てもらえる、発表できる機会を設けたことも、子供たちのやる気につながったように感じる。

以上